

# 議会報告



中川  
かつとし



徳本  
みづか



## 中川勝敏の一般質問 (2021年11月29日)

### 加齢性難聴の高額な補聴器に補助を

私は約2年前も、65歳以上の過半数が加齢性難聴という実態に対し、補聴器助成を行うよう質問し、市は国の動向を調べて判断すると回答しました。全国で35市町村がすでに加齢性難聴者への補聴器購入補助を実施しています。千葉県内では、浦安、船橋、2021年7月からは印西市も、1回に限り2万～3万5千円の補助を始めています。



#### 加齢性難聴

加齢性難聴は、内耳から脳までの衰えで起こり、徐々に進行します。音がひずんだり、特定の音が聞こえづらくなるため、音を大きくするだけでは解決できません。個々に合わせた補聴器を早くつけることが大切です。

#### 加齢性難聴の生活への影響



聞こえづらくなる

外出がへる

人と接触がへり、認知症や病気のリスクが増加

逆に、補聴器の早期装着がふえれば  
認知症・病気の予防で医療費の削減に！



#### 補聴器使用率は他国の半分以下

日本の難聴者の補聴器使用率は14%。米・英・独・仏等は30～40%台で日本の倍以上で、デンマークは50%近くです。

中川 日本で補聴器の普及率が低い理由は？

答 2018年の日本補聴器工業会の調査では、使用しない理由1位が「わずらわしい」、2位は「元の聞こえに戻らない」、経済的な理由は9位です。補聴器の満足度は、欧米諸国は7割以上で、日本は約4割と低いです。

#### 補聴器購入補助と聴力検査を

中川 補聴器購入補助は、印西市では2万円×50人＝100万円で高額にはなりません。さらに、市民全体の聴力検査を健康診断の中に入れていただきたい。2年前の私の要望に対し、国の動向を見るという回答でしたが、国が一步も動いていない事実を受け、この問題の社会的な意味をどう考えますか。

市長 高齢化問題は国の問題ととらえています。今後も国に検討をお願いしていきます。

#### 補聴器装着が広がらない理由は？

- ① 補聴器が高い
- ② 聴力検査の機会が少ない  
→徐々に進む加齢性難聴に気づかない



眼鏡と歯の治療は保険適用され、ヨーロッパでは中等度難聴者への医療的な保険適用が普通です。日本では難聴が進んで初めて補聴器をつけるので慣れずにわずらわしくなるのでは？



私が両耳に補聴器をつけた直後は、耳にびんびん情報が入り、力が腹の底からわいて、駆け出したいぐらい元気が出たのを覚えています。今の生活に補聴器は欠かせません。

市長の国まかせの考えは2年半前と変わらず残念です。今日、国全体の問題となったのは、各地方自治体が市民の要望を受けて補助を始めたから。高齢者が住みよい白井市にするため決断を強く求めます。

#### 中川の一般質問

- ・コロナ公園看板
- ・先生の労働環境
- ・少人数学級
- ・生活保護 など



白井市議会映像配信 ↑